

メキシコ ハリスコ州産アボカドの輸出市場拡大を模索

[FreshPlaza 2024年4月23日](#)

メキシコ・ハリスコ州のアボカド産地は、現在の世界30カ国から更に周年輸出市場を拡大しようとしている。ハリスコ州のアボカド業界団体(APEAJAL)のエレアザル・オセゲラ・アグアヨ会長は、今年(2024年)の輸出を5%増やす計画だとして、「この増加は、新しい果樹園の成園化による部分もあるが、この1年間、我々は米国農務省と協力して、米国向けに輸出する果樹園を増やしてきた」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

ハリスコ州の主な輸出市場は、日本、カナダ、EU、米国であるが、インド、韓国、中国、マレーシア、チリへの輸出を伸ばしたいと考えている。「今年については、国内市場への出荷を増やし、認知度を高め、より良い選択肢を提供したいと考えている。」

米国におけるアボカドの2大販売時期は、スーパーボウル(2月の第2日曜日)とシンコデマヨの祭(5月5日)である。「スーパーボウルのためには1万5,227.84トンを送ったが、現在(シンコデマヨの前)は米国農務省が承認した果樹園から出荷できる果実が少なく、週に500トンしかない。来年は、新しい生産者が米国向け輸出プログラムに参加することで、シンコデマヨに向けてより多くの果実を出荷できるようになるだろう。」

APEAJALは、ハリスコ州の3,200のアボカド生産者と、この地域で活動する23の梱包業者及び輸出業者を代表している。「我々の目標の1つは、アボカド産業が持続可能になるのを支援することである。そのため、森林再生キャンペーンを実施し、独自の森林消防隊を持ち、水効率と農薬管理に関する継続的な研修を推進するとともに、国内外の機関と協力して新しい市場の開拓を促進し、最も厳しい市場が要求する品質と安全性の認証スキームを維持している。」

アフリカではケニアのアボカド生産が増加しており、ハリスコ州にとっては供給の増加と競争の激化が課題となっている。「競争があるのは良いことであり、ハリスコ州のアボカド産業は厳しい市場に慣れている。また、どこにでも出荷できるべき時に流通経路が貧弱だ。アボカドを輸入していない国や季節限定の国があるため、より多くの市場を開く必要がある。ケニアのような国が、他国の人々にアボカドの食べ方を教え、我々の果実を輸出する機会を開拓してくれていることに感謝している。」(以下、展覧会について省略)

執筆者: クレイトン・スワート

イタリアの共同事業体 レモンの日本向け供給を倍増

[FreshPlaza 2024年4月25日](#)

3月末にリモーレモンの最初の15パレットを出荷した後、日本の流通業者はロッカ・インペリアーレ地区(カンブリア州)のレモン生産者共同事業体に対し、今後数週間で数量を2倍に増やすよう要請してきた。

この共同事業体は「海外で成果を上げ続けていることに驚いている。今後数日のうちに、さらに30パレットが東京に送られ、5月末まで毎週荷降ろしされて、高級なショップやレストランのチェーンに送られる。取引先は、種子がないこと、皮が食べられること、40%以上の果汁含有量、75%のリモネン含有量、強烈な香りなど、果実の官能的な品質を高く評価している」と説明する。

同共同事業体のピエトロ・ブオンジョルノ会長は、英国とドイツも毎週20パレット以上が輸出されている最も収益性の高い市場であると指摘しつつ、「日本では(ユーロ換算で)約7.50ユーロ/kgで販売されており、ロンドンでは平均2.90ユーロ/kg、ドイツでは約2ユーロ/kgである。オーストリア、フランス、ベルギー、スイス、アラブ首長国連邦など他の国にも販売しているが、供給量はより限られている。1月と2月は商業的には通常の間であったが、過去5週間で需要が倍増した」と述べた。

2023/24年度のリモーレモンの出荷シーズンはあと1カ月余りとなった。同会長は「今年は暖冬で雨が降らず、天候の面で異常であった。ここ数日、気温が急激に下がり、頻繁に雨が降るなど、状況が変わった。現在の市場の動向を踏まえ、最終的な追い込みも同様に満足のいくものになることを願っている。今必要なのは、あと数週間だけ収穫を続けられるよう、天候が過度に暑くならないことである」と語った。